

彙 報

令和六年度密教文化研究所だより

本年度、密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」「密教の形成と流伝に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の柱として、研究所研究員を中核とした研究活動を展開し、伝統教学の継承と社会への普及に努めた。各々の活動の詳細については、左記のとおりである。

【研究会】

○研究所研究会

※趣旨

研究所員・研究員の研究成果発表および学術的交流を趣旨とする。

※活動実績

第一回 二月二十八日（金）於…密教文化研究所会議室

木下智雄「高野山龍光院所蔵の論議古書類について」

第二回 三月二十一日（金）於…密教文化研究所会議室

木下浩良「高野山奥之院側二十三町石造立の背景」

○人権研究会

七月三日（水）一五時より第二会議室において、「歴史資料と人権」をテーマとして、歴史資料に差別的表現が載掲されている際の配慮について検討した。佐藤隆彦教授が小金丸泰仙氏の著作を例として話題提供いただいた後、研究員と高野山真言宗社会人権員の職員とで意見交換を行った。なお、本研究会は教員のFD研修を兼ねた。

【講演会】

○人権講演会（高野山真言宗社会人権局との共催）

日時…令和六年十月三十日（水）一三時二十分から十四時五十分
場所…高野山大学二〇五号教室

講師…足立信行（株式会社「Jouze」代表・高野山大学非常勤講師）

「信仰と差別—宗教二世の私が僧侶になった理由（わけ）」

講師自身の体験を中心に宗教二世の実態をお話いただいた。本講演は、SD研修を兼ねており、遠隔配信とオンラインドにて全教職員の視聴を可能にする。

○弘法大師著作研究会

※趣旨

研究所の事業の柱に、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」がある。本研究をおこなっていくためには、空海の文章を漢籍、注釈書を踏まえ正確にかつ忠実に読解していく作業が必要不可欠である。平成二十七年から弘法大師の著作をテキストとして研究会を開催し、その研究成果を『密教文化研究所紀要』別冊にて公表する。

※会員

川崎一洋・北川真寛・櫻木潤・佐藤隆彦・土居夏樹・徳重弘志・那須真裕美・藤田光寛・松長潤慶・南昌宏・米田弘仁

※活動実績

令和六年度は、前年度に引き続き『秘密曼荼羅十住心論』巻第一の訳注研究に向けた輪読会を七回開催した。次年度も『秘密曼荼羅十住心論』巻第一の訳注研究を継続する。

（発表者及び日程）

米田弘仁…四月十一日・五月十六日・六月二十日・七月二十五日・十月十七日・十一月二十八日・十二月十九日

※刊行物

『秘密曼荼羅十住心論』巻第一の訳注研究が継続中のため、今年度も『密教文化研究所紀要』別冊としての刊行は見送ることとなった。

○南山教学研究会 令和六年度活動報告

兼任研究所員 北川真寛

【研究活動概況】

南山教学研究会では、高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をす
すめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続け
られている論義法会に資すること、密教興隆を図ることを目的として活動している。

そのため、平成二十五年度に密教文化研究所所属の研究所員や研究員を中心とした有
志による南山教学研究会を発足させた。令和六年度は、次のような活動を実施している。

①論義に関する調査・研究

②南山・智山・豊山による論義研究会の会報の発行

③宗学連携事業

i 高野山勸学会への協力

・勸学会における講義の実施

・勸学会で用いられる『本書』と『打集』の活字化と校訂

ii 山内論義で用いられる論義資料の調査と辞典作成

これらの総合的かつ横断的な活動により、南山教学の特徴を少しずつ解明している。
ただしまだまだ多くの論義が残されていて、今後もさらにこれらの活動を進めていく。

参加者・土居夏樹 研究所員・高野山大学教授

北川真寛 研究所員・高野山大学准教授（事務局）

中西雄泰 高野山釈迦文院

高井知弘 高野山青巖寺

高岡隆真 高野山明王院

内海周浩 高野山南院

森 寛賢 金剛峯寺法会課

八尾康善 高野山聖無動院

畚野光栄 高野山櫻池院

木下智雄 研究員

小林拓夢 高野山大学助手

大北祥之 大学院生

根本享典 大学院生

その他、山内寺院住職・大学院生・大学生など

【研究発表】

・七月二日（金）密教研究会 於高野山大学

北川真寛「八葉四隅について―論義書を中心に―」

・二月八日（日）日本仏教総合研究学会 於東京大学

土居夏樹「『大疏指南抄』における「自証極位」解釈について」

【真言教学研究会】

・九月一日（水）於金剛峯寺

エクスカーション「勸学会二日廻し聴聞」

・三月二〇日（木）於真福寺

赤塚祐道（国際仏教学大学院大学 特任研究員）

「聖教が伝える学山の姿―天野山金剛寺の伝法会―」

佐藤もな（東京大学 特任研究員）

「道範の教主義」

【宗学連携事業】

・勸学会の期間中に、勸学会出仕者に対して講義を行った（『釈摩訶衍論』について）。

・『釈摩訶衍論』の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータ化と書き下し
文作成を行い、特に『打集』には語註を添付。また『本書』や『打集』の誤植や誤り
を校訂した。

・法談論義で使われる専門用語や、宝門と寿門で読み方が異なる語句など、問講において参考となる字典（辞典）の作成を目指して、資料の入力・校訂作業を行った。

※宗学連携事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の辞典に関しては総本山金剛峯寺法会課・高野山山内住職会と共同で活動している。

○密教文献英訳推進会（令和三年度より開始）

※趣旨

高野山大学・高野山真言宗・高野山住職会の宗学連携事業。

弘法大師及び真言密教の事教相に関する英文資料を作成し、英語文化圏の人たちへの布教・伝道に役立て、広く人類の幸福と社会の発展に寄与する。

※担当

トーマス・ドライトライン（本学名誉教授）

※活動実績

弘法大師関係資料収集、十巻章の英文翻訳、英文による真言密教の入門書等の作成を遂行中。

【論文】

An Annotated Translation of Kūkai's Jijushin ron, Fascicle One

（空海選『十住心論』第一巻の英訳研究） 密教文化研究所紀要 第36号

An Annotated Translation of Kūkai's Jijushin ron, Fascicle Two

（空海選『十住心論』第二巻の英訳研究） 高野山大学論叢 第58号

An Annotated Translation of Kūkai's Jijushin ron, Fascicle Three

（空海選『十住心論』巻第三の英訳研究） 密教文化研究所紀要 第36号

An Annotated Translation of the Practice Manuals of the Thirty-three Deities of Chin-ryū

（中院流三十三尊法の英訳研究） 密教文化研究所紀要 別冊刊行

An Annotated Translation of Amoghavajra's Ganlu Juntuli yigui

（不空訳『甘露軍荼利儀軌』の英訳研究） 本誌掲載

○巡礼遍路研究会（協力事業）

事務局 和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学密教文化研究所内
会員数 二二七名（二〇二四年一月一日現在）

会 長 柴谷 宗叔（高野山大学非常勤講師）

名誉会長 山陰加春夫（高野山大学名誉教授）

事務局長 谷口 眞梁（四国二十二番平等寺住職）

二〇二四年度活動

巡礼遍路研究会の第十回研究発表会が六月二十二日、大阪市の高野山大学難波サテライト教室で開かれた。川崎一洗高野山大特任教授（二十八番大日寺住職）の記念講演「四国遍路と曼荼羅」、川路崇博久留米大教授の研究発表「写し霊場と地域の関係…三井四国八十八ヶ所霊場を事例として」と、シンポジウム「巡礼遍路研究会十年のあゆみとこれから」があった。

【その他事業】

○戦時資料の整理

高野山真言宗の戦時資料収集事業の一貫で、金剛峯寺新別館の下の倉庫に保管されていた資料を本学一階の旧学生懇談室に移動し、一時保管させた。資料については森本研究員を中心として、文書群の全体を把握する概要調査を開始した。資料の保存状況が良くないために、企画科目「民俗調査」の授業内で、資料一点ずつを開帳するとともに、埃を払うとともに、整理番号を挟む作業を実施した。

○丹生家文書目録作成

本学図書館に寄託されている『丹生一磨家文書』の仮文書目録の作成を、関西大学年史編集室長であり、本研究所受託研究員の伊藤信明氏に依頼して作業を進めていただいた。本年度中の仮目録作成と、研究所紀要における公開を目指したが、作業が予定通り進まなかった。また予定していた研究所紀要の別冊の予算が補正予算において削除されたために、仮目録の発刊は来年度となった。

○北室院の古文書調査

高野山の子院である北室院の土蔵の調査を、和歌山県立博物館と合同で実施した。本年度は、五月から十一月に七回の概要調査を実施した。ボランティアの授業受講生が調査に参加して、調査補助を行った。累計三二名の学生が参加した。伊達政宗の書状や仙台藩御用絵師の襖絵などを確認することができた。詳細については、島田和ほか「高野山北室院の文化財について（二〇二四年度調査報告）」（『和歌山県立博物館紀要』三十一号）に掲載予定である。なお、調査期間中に北室院所蔵の国指定重要文化財「絹本着色五大力士菩薩像」が世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録二十周年記念の特別展に展示された。

○高野山アーカイブ

高野山アーカイブのNTTデータとの契約期限が切れたために、一旦公開を休止することとなった。新たなデジタルアーカイブを構築するために、本研究所の要望を盛り込んだ仕様書を作成し、関係する四社に提示し、見積もりを依頼した。十一月の密教文化研究所協議会にて見積額とアーカイブの構築の可能性について報告した。同会議では、IT担当事務職員から、他業者からの見積もりと、遠隔での業者ヒアリングが行われた。その後、研究員による意見交換が行われたが、意見がまとまらず継続審議となった。

○高野山聖教調査研究

清浄心院文書の調査を継続する傍ら、他寺院関連の史料につき、自治体史を中心として収集中。

○博学連携事業

御影堂文書の調査を継続。今年度は番外六箱分の調書を継続中。

○ゴルドン文庫調査研究

令和四年度より図書館から移管した事業。図書館が所蔵するゴルドン夫人関係の資料を調査研究する。

○龍光院文書調査研究

令和四年度より図書館から移管した事業。図書館が所蔵する龍光院の古文書・聖教類を調査研究する。

令和六年度研究活動報告

専任研究員 木下 智雄

【研究活動概況】

筆者は、高野山大学密教文化研究所が掲げる三大研究領域（弘法大師の思想とその展開に関する研究」、「密教の形成と流伝に関する研究」、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」）のうち、「密教の形成と流伝に関する研究」に従事し、「近世御流神道の基礎的研究」を研究題目としている。

この近世御流神道は、主に高野山・智山・豊山の三山において各別に相承され、順に①高野山・日光院英仙（一六六六～一七四五以後）、②智山・智積院鐙啓（一七一八～一七九四）、③豊山・法起院憲誓（一七七四～一八三八）の相承が先行研究によって知られている。

これら3つの相承の内、今年度は③の豊山の相承について研究を進めた。③については、三輪流神道に関する成果は既に知られているものの御流神道に関しては大山公淳の研究をみるのみであった。

そこで、高野山大学図書館の真別処寄託の聖教で、仁和寺門跡であった浦上隆應（一八五六～一九二六）所持のものを中心に検討した。これらの聖教の内、とくに『御流神道灌頂事理記』に注目し、「豊山相伝の御流神道について―『御流神道灌頂事理記』を中心に―」として、七月に行われたの密教研究会において発表し、これを論文として投稿した。本研究において先行研究で言及される法起院憲誓の他、月輪院栄祥（一七九七～一八五六）が憲誓の相伝を整理したこと、その後、護持院通済（一七八八～一八七二）を通じて広く流布する契機となったであろうことを明らかにした。

また、密教文化研究所の龍光院文書調査研究事業に従事し、一昨年度より版本を中心に傍目録作成を行ってきたが、今年度は特に龍光院所蔵の論義古草箱三箱を中心に傍目録作成を行っており、概要の把握と一箱分・約二〇〇点の古草類について傍目録を作成した。その成果については、今年度の研究所研究会において、発表予定である。

【研究発表】

・「豊山相伝の御流神道について―『御流神道灌頂事理記』を中心に―」、密教研究会学術大会、七月十二日（金）、於高野山大学。

【論文】

・豊山相伝の御流神道について―『御流神道灌頂事理記』を中心に―、『密教文化』第二五三・二五四号（投稿中）。

密教文化研究所構成員名簿

(令和七年三月現在 各々五十音順)

○所長

佐藤隆彦(高野山大学教授)

○専従研究員

菊谷竜太(高野山大学准教授)

坂口太郎(高野山大学准教授)

櫻木潤(高野山大学准教授)

○兼任研究員

北川真寛(高野山大学准教授)

土居夏樹(高野山大学教授)

野田悟(高野山大学准教授)

松長潤慶(高野山大学教授・副学長)

溝端悠朗(高野山大学専任講師)

南昌宏(高野山大学教授・図書館長)

森本一彦(高野山大学教授)

○専任研究員

木下智雄(高野山大学非常勤講師)

○委託研究員

奥山直司(高野山大学名誉教授)

川崎一洋(高野山大学特任准教授)

酒井真道(関西大学教授)

趙新玲

トーマス・ドライトライン(高野山大学名誉教授)

那須真裕美(高野山大学非常勤講師)

米田弘仁(高野山大学非常勤講師)

森真幸(京都工芸繊維大学助教)

Daisy Cheung(ウィーン大学・オーストリア科学アカデミー)

○受託研究員

伊藤信明

大家秀夫

奥風栄弘

小田博志

木下浩良

金海

柴谷宗叔

橋本弘文

範駿

林山まゆり

○研究所事務室

木下浩良

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

第1条 密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。

第2条 編集委員会は、次の委員をもって構成する。

（1）研究所長

（2）専従研究所員

（3）「紀要」編集担当者

2 編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。

第3条 編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。

第4条 編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。

（1）「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。

（2）「紀要」寄稿者への補筆および修正の要請。

第5条 委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。

第6条 この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。

附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附則 この規程は、平成14年5月22日から施行する

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

第1条 『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。

第2条 「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。

（1）研究所長

（2）研究所員

（3）研究員

（4）編集委員会が適当と認める者

第3条 原稿は、原則として400字詰原稿用紙70枚以内とする。

第4条 原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な改変・追加等は認めない。

第5条 寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。

第6条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。

第7条 寄稿者には、掲載誌2部および抜刷30部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。

附則 この規程は、平成9年4月1日から施行する

執筆者紹介（掲載順）

甲田有叶 元密教文化研究所事務室長兼専門員

山口文章 高野山学國法人本部本部長・高野山大学非常勤講師

徳重弘志 高野山大学特任講師

トーマス・ドライトライン 密教文化研究所委託研究員・高野山大学名誉教授

編集後記（所長）

○『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十八号をお届け致します。

四人の執筆者による論考は、本年度の密教文化研究所の研究成果の一端を飾るものです。読者諸氏におかれましては、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

○今年度も密教文化研究所の各種研究会が活発に活動した一年となりました。

詳細は彙報をご覧ください。

○今後とも密教文化研究所の活動にお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

高野山大学密教文化研究所紀要 第三十八号

令和七年三月二十一日 印刷

令和七年三月二十五日 発行

編集者 密教文化研究所

代表者 佐藤隆彦

発行所 密教文化研究所

和歌山県伊都郡高野町高野山三八五 高野山大学

電話（〇七三）五六―二三九〇 千六四八―〇二八〇

印刷所 株式会社 協和

和歌山県海南市南赤坂五一三

電話（〇七三）四八三―五二二一 千六四二―〇〇一七